

令和5年度 ABLE Time (エイブルタイム) (総合的な探究の時間) 全体計画

広島市立舟入高等学校 全日制課程

【学校教育目標】

校訓「おのれに徹して人のために生きよう」を教育活動の指針として、生徒の

- (1) 多様性を認め自他を尊重する豊かな人間性
- (2) 主体的・対話的で深い学びを通した高い知性と教養
- (3) 課題を発見し解決に取り組み新たな価値を育む創造力 を育成する。

【総合的な探究の時間の目標】

- (1) 自己の在り方生き方を考えながら、現代社会の問題を自己の問題として捉え、課題を発見し、「問い」を立て、よりよく課題を解決していくための 資質・能力を育成する。
- (2) 共働的な活動を通じて、多面的な他者理解と自己の相対化を図り、「対話」の態度を養う。
- (3) 自己の思いや考えを、相手にわかりやすく発信する力を育てる。

【舟入高校生の実態】

- ・与えられた問題に対して高い能力を発揮できる。
- ・自ら課題を見つけ、自ら学び、考え、判断し行動する力が不十分である。
- ・学校行事に積極的に取り組むことができる。

【保護者・地域の願い】

- ・勉強と部活動を両立。
- ・授業の内容を充実。
- ・学校行事への積極的な取り組み。
- ・国際平和文化都市の一員として世界恒久平和の実現に貢献する生徒の育成。
- ・確かな学力と責任感をもち、社会に貢献できる人間性豊かな生徒の育成。

【重点目標】

「舟入生に身につけさせたい9つの力」の習得を目指し、以下の目標を各学年において定める

第1学年：平和探究の実践を通して、探究に必要な基本的スキルの習得と「問い」続ける態度の育成をめざす

第2学年：自己の興味・関心に基づき、分野別探究活動を行い、9つの力の基礎の確立をめざす

第3学年：第1，2学年の探究活動を整理し、他者に伝える活動を通して、9つの力の研磨をめざす

【学習活動】

- ① 各科目・教科で学んだことと関連付けながら、毎時の学習課題を明確化させる。
- ② 個人レポート・小論文の作成や研究発表などを実践する。（「問い」立て→課題設定→情報収集→分析→まとめ・表現）
- ③ 生徒の相互評価や自己評価を実施する。
- ④ 知識や技能の深化、総合化を図る。

【指導体制】

- ・必要に応じて適宜、他教科・科目との連携をとりつつ、イノベーションデザイン部が指導計画を作成する。
- ・それぞれの学年において学年会・教科会で指導の内容を共有し、全教職員で指導に当たる。

【地域や大学等との連携】

＜舟入プラットフォームの形成＞

生徒が自ら行動し、大学、企業、地域などと積極的につながりを持つことができるように、学校独自のプラットフォームを確立する。

＜学校間連携＞

WWL 連携（広島大学附属福山および長崎県立長崎東高等学校、他）や探究道場（京都府立堀川高等学校、他）など他校との連携を積極的に行い、生徒間の共同探究学習・教員間の共同探究カリキュラム開発を行う。

＜平和教育＞

修学旅行先の人々との交流・県内外における平和学習の実施を積極的に行い、平和を発信していく

学習評価：舟入高等学校が総合的な探究の時間を通して生徒に身につけさせたい9つの力

以下の評価基準に基づき、活動の実施状況の観察、ポートフォリオ、プレゼンテーション、生徒の自己評価および生徒相互の評価、授業観察などにより評価する。

身につけさせたい力			評価基準
3つの柱	項目	定義	A
生きて働く 「知識・技能」	専門力	各教科・科目等に関する個別の知識や技能(身体的技能や芸術表現のための技能等も含む)	各教科・科目等に関する個別の知識や技能を身に付けている。また、状況に応じて必要な知識や技能を選択・使用できる。
	協働力	集団における自分の役割を理解し、コミュニケーションスキル、アイデアの発想と収束のための思考ツールなどを活用しながら、課題に取り組む力	集団における自分の役割を理解し、コミュニケーションスキル、アイデアの発想と収束のための思考ツールなどを状況に応じて活用しながら、課題に取り組むことができる。
	活用力	知識や技能を関連付けたり組み合わせたりしていくなど、様々な場面で活用できるように体系化しながら身に付けていく力	知識や技能を関連付けたり組み合わせたりしていくなど、様々な場面で活用できるように体系化しながら身に付けている。
未知の状況にも 対応できる 「思考力・判断力 ・表現力等」	論理的思考力	複雑な事象を整理・分析した上で構成要素等の因果関係を明確にし、道筋を立てる力	複雑な事象を整理・分析した上で構成要素等の因果関係を明確にし、道筋を立てることができる。
	判断力	物事を正しく読み取り、その根本となる要素を適切に評価したうえで、判断する力	物事を正しく読み取り、その根本となる要素を適切に評価したうえで、状況に応じた判断ができる。
	表現力	感情や思考などを他者に分かりやすく伝える形式に表す力	感情や思考などを、相手の性質や状況に応じて分かりやすく伝える形式に表し、伝えることができる。
学びを 人生や社会に 生かそうとする 「学びに向かう力 ・人間性等」	探究力	様々な社会課題を自分事として捉え、関連する知識を深めたり、原因の解明に当たったり、真理を追究しようとする力	様々な社会課題を自分事として捉え、関連する知識を深めたり、原因の解明に当たったり、真理を追究しようとしている。
	自己修正力	多面的・多角的な視点で自らの感情や行動および考え方を修正しようとする力	目標の達成に向けて、自らの感情や行動および考え方を多面的・多角的に捉え、修正しようとしている。
	完遂力	困難な状況でも、最後まで粘り強く取り組み、やり遂げようとする力	困難な状況でも、その解決に向けて最後まで粘り強く取り組み、やり遂げようとしている。

ABLE Time 各教科・科目等との関連

国語科

図書教育や論文指導を担う。9つの力のうち主に「論理的思考力」の育成に重点を置き、情報をまとめ、要約したり、発信したりする力を育てる。

数学科

統計量の出し方、統計量の適切な使い方、分析の仕方等の指導を担う。9つの力のうち主に「論理的思考力」の育成に重点を置き、情報を分析し整理する力を育てる。

外国語科

英語で必要な情報を取り出してまとめる力とそれを表現して発信する力を指導を担う。9つの力のうち主に「活用力」と「表現力」の育成に重点を置き、情報の見せ方や伝え方を工夫する力を育てる。

地歴公民科

社会課題の把握や考える力を育む指導を担う。9つの力のうち主に「協働力」「思考力」「判断力」の育成に重点を置き、情報を比較したり、整理したりしたうえで課題を考える力を育てる。

理科

「正しい研究」の指導や自然的普遍的真理を追究する態度を育むことを担う。9つの力のうち主に「探究力」の育成に重点を置き、情報機器の基本的な使い方を習得した上で、情報の収集から発信までを一貫して行う力を育てる。

保健体育科

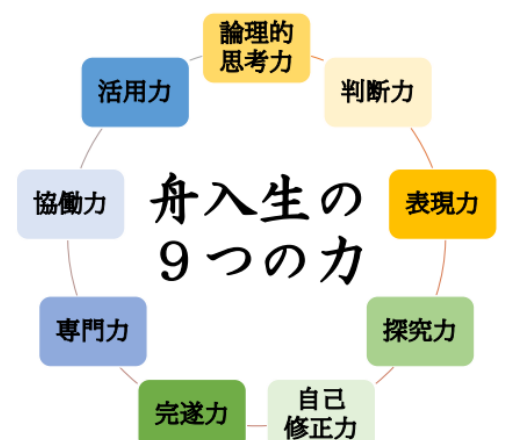
健康的な社会環境づくりの重要性について理解を深め、心身の健康の保持増進のための指導を行う。9つの力のうち、主に「探究力」「表現力」の育成に重点を置く。情報を収集したり、発信したりする力を育てる。

芸術科

9つの力のうち芸術を通して、主に「表現力」「完遂力」の育成に重点を置く。知覚感受したことを自らの感情や思考として、他者に伝える能力や、物事に最後まで粘り強く取り組む姿勢を育成する

家庭科

礼儀作法について等、ソーシャルスキルを身につけるための指導を担う。9つの力のうち主に「協働力」と「自己修正力」の育成に重点を置き、情報を収集したり、整理したりする力を育てる。



内容（探究課題及び育成を目指す具体的な資質・能力）

該当学年	第1学年		
探究課題	課題探究のための「問う」力の育成		
目指す 具体的な 資質・能力	(1) 知識・技能	(2) 思考力, 判断力, 表現力等	(3) 学びに向かう力, 人間性等
	探究に必要なリテラシーや探究の意義や価値への深い理解	自分の興味関心に応じて社会諸課題について、情報収集やその整理、分析を通して、自分の結論を導く力及びそれらを日本語で表現する力	探究活動に主体的・協働的に取り組もうとする態度や、自己の相対化を図る
評価基準・評価方法	<p>(1) 探究に必要なリテラシーや探究の意義や価値の理解を身につけることができている。</p> <p>(2) 自分の興味関心に応じた社会諸課題について、情報収集やその整理、分析を通して、自分の結論を導く力及びそれらを日本語で表現する力を身につけることができている。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組む態度、自己を相対的に見る力を養うことができている。</p> <p>方法：読書体験や社会の諸問題についての原稿・レポートの作成、成果物の読み合いと評価及び分析、レポート等をもとにした発表などによって評価する。</p>		

該当学年	第2学年		
探究課題	学問における問題意識と「問う」力の育成		
目指す 具体的な 資質・能力	(1) 知識・技能	(2) 思考力, 判断力, 表現力等	(3) 学びに向かう力, 人間性等
	探究のリテラシーや意義・価値への理解を活用した探究分野に対する興味・関心・理解の伸長および深化と、「問い」を立てる技能	自分の探究する分野について、自ら「問い」を立てたうえで、情報収集やその整理、分析を通して、論理的な結論を導く力及びそれらを多様な形で表現し、相手にわかりやすく発信する力	探究活動に主体的・協働的に取り組むことを通して、自己の生き方についてよりよく考察する姿勢及び現代社会の問題を自己の視点で見出し「自分事」として捉える態度
評価基準・評価方法	<p>(1) 探究に必要なリテラシーや探究の意義・価値の理解を活用し、探究分野に対する興味・関心・理解を伸長させている。また、「問い」を立てる技能を習得している。</p> <p>(2) 自分の探究する分野について、自ら「問い」を立てたうえで、情報収集やその整理、分析を通して、論理的な結論を導く力及びそれらを多様な形で表現し、相手にわかりやすく発信している。</p> <p>(3) 探究活動に主体的・協働的に取り組むことを通して、自己の生き方についてよりよく考察する姿勢を身につけたうえで、現代社会の問題を自己の視点で見出し「自分事」として捉えようとしている。</p> <p>方法：ポートフォリオ、生徒の自己評価、授業観察、プレゼンテーションなどによって評価する。</p>		

該当学年	第3学年		
探究課題	「まとめる」力・「伝える」力の育成		
目指す 具体的な 資質・能力	(1) 知識・技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
	探究に必要なリテラシーや課題の発見や解決に必要な知識及び技能、探究の意義や価値の理解	自分の興味関心に応じて課題を立て、情報収集やその整理、分析を通して、自分の結論を導く力及びそれらをまとめ・表現する力	探究に主体的・協働的に取り組む態度、多面的な他者理解と自己の相対化を通じた「対話」の態度

<p>評価基準・ 評価方法</p>	<p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識および技能を身に付け、課題にかかわる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できる。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見出し、自分で課題を立てて、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。</p> <p>(3) 探究に主体的・共同的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度が身に付いている。</p> <p>方法：論文、ルーブリックシート、その他ワークシート等の記述内容によって評価する。</p>
-----------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------